

第3回

# 認証と スマートクライアント アプリケーションの開発

大田 浩 *OTA, Hiroshi*  
日本オラクル株式会社  
Oracle Direct テクニカルサービスグループ



## はじめに

お待たせいたしました。今回から実際のアプリケーションの開発へと入り

### レベル >>> Level



### 言語 >>> Language

- Visual Basic
- C#
- PL/SQL

### ツール >>> Tool

- Visual Studio 2005 Professional
- Oracle Data Provider for .NET
- Oracle Developer Tools for Visual Studio .NET
- Oracle Database Extensions for .NET
- Oracle Services for Microsoft Transaction Server

### サンプル >>> Sample

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、  
<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>  
からダウンロード可能です。

ます。

前回で開発環境の構築が終わったので、すでに以下の環境が構築されているという前提で話を進めます。

### DBサーバー

- Oracle Database 10g Release 2 (Windows)

### 開発環境

- Visual Studio 2005 Standard Edition 以上
- Oracle Data Provider for .NET 10.2.0.2
- Oracle Developer Tools for Visual

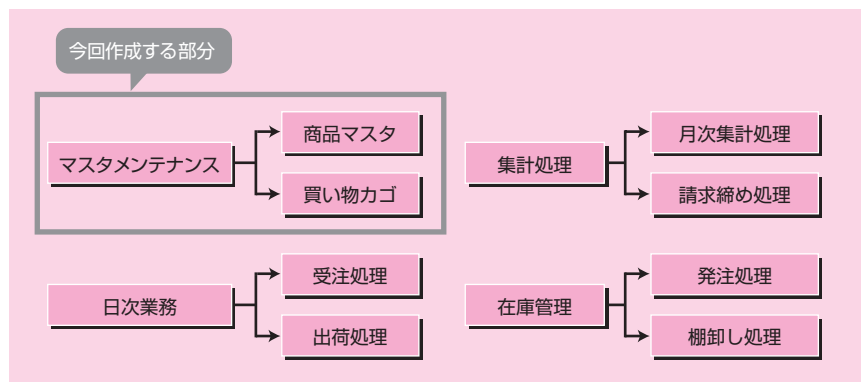
Studio .NET 10.2.0.2

今回作成するアプリケーションは、図1の部分となります。ここではECサイトを構築、運用するための社内システムなので、利用者は社内ユーザーとなります。

## 認証

システムを構築する場合、最初に考慮するのはユーザー認証でしょう。そこで、はじめに認証について解説します。

図1：今回作成するアプリケーション



## ▶ ASP.NETでの認証

ASP.NETでは大きく、

- ・フォーム認証
- ・Windows認証

の2種類の方法が用意されています。それぞれの特徴は以下のようになります。

### フォーム認証

フォーム認証とは、未認証の要求を、HTTPのクライアント側リダイレクトを使用してHTMLフォームにリダイレクトするシステムです。ユーザーは、リダイレクトされたHTMLフォームにユーザー情報を入力して送信します。アプリケーションが要求を認証すると、システムはユーザー情報またはIDを再取得するためのキーを含んだCookieを発行します。

以降の要求は、要求ヘッダー内のこのCookieを使用して発行されます。これらの要求に対する認証や承認は、アプリケーション開発者が指定した検証方法に基づいてASP.NETイベントハンドラによって行なわれます。

### Windows認証

ASP.NETでWindows認証を使用する設定にした場合、IISは、

- ・基本認証
- ・統合Windows認証
- ・ダイジェスト認証
- ・クライアント証明書認証

のいずれかの方法でユーザー認証を行ないます。この際、認証用のコードを記述する必要は一切ありません。

ASP.NETでWindows認証を使用するためには、アプリケーションの利用者は、サーバーで認証が可能なWindowsアカウントを持たなければいけません。

こうしたアカウントは“ローカルWindowsアカウント”または“ドメインアカウント”として発行されることとなります。IISは、ユーザーを認証すると、その認証ユーザーのWindowsトークンをWebリクエストと共にASP.NETに渡します。

Visual Studio 2005 (以下VS2005) からは、ウィザードを利用すれば容易に認証を設定できます。

これから作成するアプリケーションは、利用者が社内ユーザーに限定されるので、Windows認証を使用することにします。

では、実際に設定方法を見てゆくとしましょう。

### VS2005からの認証設定

まず、VS2005からASP.NET Webサ

ービスのプロジェクトを新規に作成します。メニューの「ファイル」から「新しいWebサイト」を選択し、テンプレートからは「ASP.NET Webサービス」を選択します。ここではプロジェクト名を「wsEC」とし、言語にVisual Basicを使用しています。

次に、メニューから「Webサイト」-「ASP.NET構成」を選択します(図2)。

すると、「Webサイト管理ツール」(図3)が起動します。「セキュリティ」リンクをクリックしてください。続いて「手順に従ってセキュリティを構成するには、セキュリティ設定ウィザードを使用してください」のリンクをクリックし、ウィザードを起動します。

「ステップ2: アクセス方法の選択」では、「ローカルエリアネットワーク (LAN) から」を選択し、後はウィザードに従えば、Windows認証の設定が完了します。

ここで、アクセス方法を「LAN」ではなく「インターネットから」と指定すると「フォーム認証」が設定されることになります。フォーム認証について

図2: ASP.NET構成

